

通所リハビリテーション機能の地域開放

社会福祉法人 南山城学園（京都府）

住 所 〒 610-0112

京都府城陽市長池五社ヶ谷 14-1

T E L 0774-54-7210

U R L

経 営 理 念

- ・利用者様の尊厳を守り、幸福を追求する
- ・地域のニーズにパイオニア精神で取り組み、共生共助の地域づくりに貢献する
- ・いつでも誰もが安心して利用できる福祉サービスを創造する

事 業 内 容 及 び 定 員

□居住支援事業

- ・障害者支援施設 7 か所

（円 60 名、和 79 名、魁 60 名、翼 35 名、凜 40 名、光 42 名、輝 58 名）

- ・障害者グループホーム 8 か所、定員計 60 名

（観音堂、樋尻、寺田、長池、鷺坂、今池、古川、宇治小倉）

- ・介護老人保健施設 煌、定員 100 名

□通所支援事業

- ・知的障害者デイサービスセンターあっぷ 25 名

- ・身体障害者デイサービスセンターすいんぐ 20 名

- ・障害者デイサービスセンターわこう 35 名

- ・障害者就労移行支援事業所 さびゅいえ 20 名

- ・児童日中一時支援事業所ちえりー 6 名

- ・高齢者デイサービスセンターすまいる 25 名

- ・介護老人保健施設煌 通所リハビリテーション 30 名

□相談支援事業 9 か所

（障害者就業・生活支援センターはぴねす、障害者生活支援センターはーもにい、リーふ、障害者支援センターじゃすと、障害児（者）地域療育支援センター、山城総合相談支援センターういる、京都府地域生活定着支援センターふいっと、居宅介護支援事業所すまいる、若年者等就労支援拠点サザン京都）

□子育て支援事業 4 か所

- ・もりの詩保育園 定員 60 名

- ・かぜの詩保育園、そらの詩保育園、はなの詩保育園 定員各 12 名

□医療・健康管理事業 2 箇所
(南山城学園診療所、和光診療所)
□カフェ 3 箇所
(ぶちぼんと、ぶらんたん、さぴゅいえ)

収 入 (法人全体) 平成 29 年度決算	①社会福祉事業	3,522,411,558 円
	②公益事業	83,480,803 円
	③収益事業	円

職 員 数 677 名
(法人全体)

当 面 す る
経 営 課 題



通所リハビリテーション機能の地域開放



社会福祉法人

南山城学園



1. 南山城学園の概要



京都市エリア

障害者支援施設	2 施設
障害者デイサービス	1 施設
相談事業所	2 ヶ所
診療所	1 施設
保育園・小規模保育園	4 施設

城陽・宇治エリア

障害者支援施設	5 施設
障害者デイサービス	2 施設
障害者グループホーム	7 ヶ所
高齢者デイサービス	1 施設
介護老人保健施設	1 施設
相談事業所	7 ヶ所
診療所	1 施設

合計 34事業拠点
総事業費 37億円
職員数 677名



社会福祉法人
南山城学園

2

2.事業の目的

当法人では、創立50周年を機会に中長期ビジョンを作成し中期計画2020に「地域コミュニティの活性化」を掲げた。

法人が有する機能や設備を地域に開放するとともに、地元自治会と連携を図りながら地域課題に取り組むとしている。

そこで、通所リハビリテーションの休業日である土曜日に地域の長寿会に「高齢者対応型のパワーリハビリ機器」を開放し、地域コミュニティの活性化を図ることとした。

3.事業の背景

地域包括ケアシステムが進められる中、地域支援事業の中に創設された総合事業では、地域住民の主体性による介護予防活動が示されている。

しかしながら、住民が主体的・継続的に「介護予防事業」を実施することは困難な面が多く、当地域での活動も活発ではなかった。

こうした背景のもと、地域の社会資源である社会福祉法人の機能を地域に還元することは、地域にとっても法人にとっても有益であることから、本事業を実施することとなった。

4. 本事業の法人内での位置づけ

長期ビジョン2025

法人理念を実現するためにめざすべき、今後10年の方向性

Quality暮らしの質の向上 Resource経営資源の有効活用 Creation創造性の発揮

中期経営計画2020

長期ビジョン2025を具体化するための今後5年の行動目標

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 障害者の地域移行 | 6. 魅力ある職場づくり |
| 2. 高齢障害者の居住安定 | 7. 災害時の対応 |
| 3. 高齢者福祉の充実 | 8. 保育・子育て支援事業の展開 |
| 4. 地域コミュニティの活性化 | 9. 生活困窮者への支援 |
| 5. 福祉教育・啓発の推進 | 10. 研究と実践の連係 |

← ネクストビジョン2025
に沿って、法人経営に
おけるPDCAを強化

南山城学園

5

5. 事業開始に至るまでの経過

事業開始にあたっては、プロジェクトチームを組織した。

プロジェクトチームとして、総合事業の先進地域(桑名市)訪問、先進事例の調査研究を実施した。

また、地域への理解を求めるため、地元自治会に出向いて体操教室を実施するなど、法人事業に住民が参加するのではなく、住民が主体となる地域事業に、法人が必要な支援することに心がけた。

南山城学園

6

6.事業の概要

事業名 「けんこうくらぶ」

日 時 毎週、土曜日の10:00~11:00

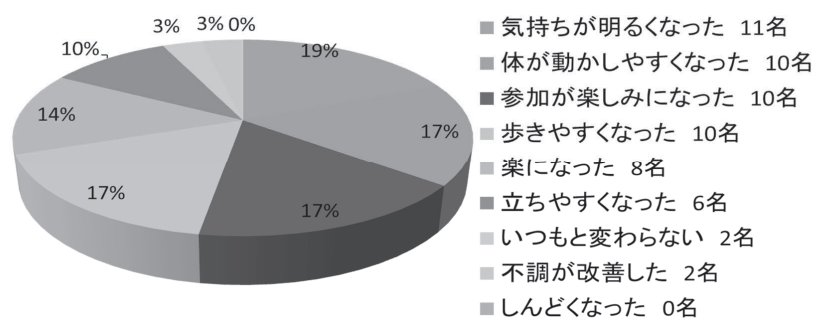
参加者 長池長寿会 6~19名（平均14名）

職 員 2名（月2回はリハビリ職員）

内 容 パワーリハビリテーションマシン 6台を中心に構成プログラムを構成

7.事業の成果

《利用者アンケート》



7.事業の成果

利用者アンケートにあるように、全体として満足度は高くその要因は次のようなことが考えられる。

- 法人の立地条件を考え、公民館から送迎した
- 常時職員を2名配置することが、安心につながった
また、月2回リハビリ職員を配置したことで、効果的な運動が実施できている。
- 広報誌に掲載したことで、地域への啓発につながった

8.まとめ

本事業は介護予防事業であり、その目標は、住民が主体的に活動し、支え合い、助け合いながら、住み慣れた地域で暮らし続けることである。

法人としては、施設の開放は継続させながら、現在実施している送迎等を地域へ移管していくことが、今後は必要であろうと考えている。

また、定期的な体力測定を実施し、運動機能に関するデータ収集することにより、個人の状況を把握し、要介護状態等に進むことを予防することも必要と考えている。

高齢者の生きがい・居場所



社会福祉法人
南山城学園

11

高齢者の生きがい・居場所



社会福祉法人
南山城学園

12

高齢者の生きがい・居場所



社会福祉法人
南山城学園

13